

世界中で毎年50万人が犠牲になっ
ていると言われる自動小銃や地雷の削減
について議論する公開の国際会議「小
型武器よさらば」が7日、東京都千代
田区の上智大学で始まった。

非政府組織(NGO)や政府関係者
ら約300人が参加。難民支援や地雷
対策に取り組んでいるNGO「難民を

「小型武器よさらば」

NGO国際会議開幕

助ける会」が主催した。講演したジュ
ネーブ軍縮会議政府代表部の堂之脇光
朗・元大使は、「小型兵器は事実上の
大量破壊兵器。対策が急務だ。武器の
回収や治安体制の確立、盗難、密輸の
防止で世界中が協力しなければならな
い」と話した。会議は8日まで。朝日
新聞で「カラシニコフ」を連載した松
本仁一編集委員も講演する予定。

「武器よさらば」のかけ声でモデルガ
ンを壊した参加者たち。7日午前、東
京・上智大学で、佐藤慈子撮影



小型武器削減へ

東京で国際会議

自動小銃や携帯用対戦車ミ
サイル、地雷などの小型武器
の削減と管理強化を目指し、



世界の民間活動団体(NGO)
が話し合う「小型武器よさ
らば」NGO国際会議 in T
OKYO」(読売新聞東京本
社など後援)が7日、東京都
千代田区の上智大学で始ま
った。

会議は地雷廃絶活動などに取
り組む国際NGO「難民を助け
る会」(東京都品川区)が初め
て企画。ウガンダやフィリピン、
アルゼンチンなどのNGO関係
者らが出席した。

開会式では木製のかなづちで
カラシニコフ銃を壊すパフォー
マンスも行われた。写真。